

公民館だより なかがわ

第512号

令和7年7月1日
発行 中川地区公民館
TEL.Fax : 679-2501

参加者募集

【一般講座】

「スマホ教室」開催

第1回 7月29日(火) 10:00~12:00

「スマートフォンの基本と キャッシュレス体験」

PayPay
体験も！

第2回 8月19日(火) 10:00~12:00

「スマートフォンの基本と ネット詐欺対策」

スマホ詐欺を
未然に防ぐ方法！

※どちらか1日のみか、両日か申込時にお伝えください。
※デモ機を使っの講習になりますが、お使いのスマート
フォンの質問の時間も設けています。

これからスマートフォンを使いたい方も参加できます！

場 所：中川地区公民館 集会室

講 師：携帯電話会社講師

持ち物：お使いのスマートフォン

(どの会社のiphone/android どちらも可)

飲み物、必要な方は眼鏡

対 象：中川地区民 各回 20 名程度まで (定員になり次第受付終了)

参加費：無料 (※参加者 5 名未満で中止の場合あり)

※何回も参加して
少しずつ覚えましょう！

わんぱく広場 「花火祭り」

日 時：7月29日(火)
19:00~ 20:00

場 所：中川地区公民館広場

対 象：中川地区の小中学生

(小学生は大人の付き添い必須)

※詳細は、小学校配布チラシ、
地区回覧チラシをご覧ください。

中川シニアクラブ研修会予告

日 時：9月4日(木)~ 9月5日(金)

場 所：新潟方面を予定しています！

対 象：中川地区民

※詳細は、8月の館報・地区回覧チラシを
ご覧ください。

お申込み・お問合せ：中川地区公民館 (☎679-2501)



7月・8月 行事予定



7/1(火) 市報、館報
7/2(水) 三者会、会長会、路線バス対策協議会
7/4(金) 中川地区活動事業補助金審査委員会
7/5(土) さわやかコンサート「山形県警察音楽隊」
7/6(日) 山形ベンチャーズコンサート
7/11(金) 体育部会
7/15(火) そば打ち愛好会
7/16(水) ~17(木) 会長会研修旅行
7/18(金) パソコンクラブ
7/22(火) 粋いき倶楽部、高齢者グラウンド・ゴルフ大会共催
(職員不在時間帯あり)
7/25(金) ウォーキング教室 (職員不在時間帯あり)
7/27(日) 中川地区夏の安全パレード
7/28(月) 議会報告会 (中川地区公民館)
7/29(火) 一般講座「スマホ教室」
わんぱく広場「花火祭り」

8/1(金) 市報・館報・福祉村だより
三者会、会長会、公民館運営協議会
活動交付金交付式
白石上山線建設促進対策協議会
8/8(金) 防犯協会中川支部幹事会
8/19(火) 一般講座「スマホ教室」
8/22(金) 粋いき倶楽部 (午後)
福祉村運動会代表者会議
8/24(日) ソフトボール大会
8/25(月) 上生居堀切永野開拓線建設同盟会総会
8/26(火) そば打ち愛好会
8/29(金) パソコンクラブ
防犯診断〈蔵王地区〉

休館日のお知らせ

8月12日(火)、13日(水)は休館日となります。
ご不便おかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

グラウンド・ゴルフ愛好会
(月曜日) 7/7、14、23(水)、28
詩吟教室 (火曜日) 7/8、15、22

ラージピンポン愛好会 (木曜日) 7/3、10、17、24、31
スポーツ麻雀愛好会 (木曜日) 7/3、10、17、24、31



中川地区食生活改善推進協議会主催 「笹巻き作り講習会」開催

6月3日(火)中川地区食生活改善推進協議会主催の「笹巻き作り講習会」が開催されました。中川福祉村の笹巻宅配事業で作っている「笹巻き」は、作り手が年々減ってきています。多くの地区民に作り方を伝達し、この伝統ある福祉村の笹巻きを後世に伝えていこうという取り組みです。参加した方々は、食改の会員さんに教えてもらい、難しいながらも楽しく笹巻づくりに取り組んで、120個ほどの笹巻きを作り上げました。作った笹巻きは持ち帰り、帰ってからの楽しみとなりました♪



第1回 自衛消防訓練

6月12日(木)「中川地区公民館1階調理室の鍋から引火し周囲に延焼」という想定で、第1回自衛消防訓練が行われました。館内を回って大声で火事振れをする人、119番通報をする人、来館者を誘導する人と役割を決め、本番さながらです。また、「ラージピンポン愛好会」の皆さんと一緒に水消火器を使い消火訓練も行ないました。「いざ」という時に、できる限り慌てずに消火器を使えるように、1年に一度でも訓練しておく事が大切ですね。



中川地区「クアの道高野」整備



6月14日(土)の朝6時より、会長会有志、福祉村村長、館長、事務長の参加によりクアの道の整備が行われ、主にコースやクアパークの草刈と支障木の伐採をしていただきました。草が生い茂っていて歩きにくかったコースが大変歩きやすくなりました。作業していただいた皆さん、朝早くから本当にありがとうございました。



ウォーキング教室 「クアの道高野」

6月22日(日)第3回ウォーキング教室は「毎日ウォーキング」の中川地区「クアの道高野」での開催に合わせ、中川地区のウォーキング会員と一般の方の参加で開催されました。6月14日(土)に中川地区会長会有志の皆さんより、クアの道を整備していただいたので大変歩きやすいコースとなりました。梅雨とは思えない青空のもと出発!!ガイドさんの話を聞きながらゆっくりと歩き、やまびこの丘に到着!!参加者全員で恒例の「ヤッホ」を行い、時より吹く風が心地よい時間となりました。クアパークのアジサイも咲き誇っていました。是非皆さん中川地区「クアの道高野」を歩いてみてください!!



中川福祉村 中川やすらぎ笹巻き宅配事業

6月16日(月)～18日(水)、中川福祉村「中川やすらぎ笹巻き宅配事業」が開催されました。16日、民生児童委員の皆さんによる1,500枚の笹の葉取りと、中川地区食生活改善推進協議会会員さんが笹の葉を一枚一枚洗うことから始まりました。17日、食改さんと地区のボランティアの方々により約550個の笹巻きが作られ、18日、中川小学校4～6年生の心のこもった手紙と共に、民生児童委員の皆さんが笹巻きと手紙を楽しみにしている地区内の一人暮らしの高齢者の方に配達しました。全世代がともに生き、喜びを共感できるこの福祉の心は絶える事なく受け継がれていかなければならないと改めて感じました。ご協力下さいました多くの皆様、お忙しい中、連日の作業本当にお疲れ様でした。心より感謝申し上げます。



【一般講座】「マクラメ編み教室」

6月24日(火)、生涯学習開発財団マクラメジュエリー技能認定士の鈴木有美先生にお越しいただき、「マクラメ編み教室」が開催されました。令和4年にも鈴木先生にお越しいただきキーホルダーを作成しました。参加者の希望で、その後3回にわたる大作にも挑戦しています。その時に参加した方に新しい方も加わり、今回はブローチ作りに挑戦しました。編み方は一度覚えてしまえばサクサクと進みます！が、途中でどこをどう編んでいるのかわからなくなるので、皆さん今回も集中してもくもくと編んでいました。同じ作品なのにそれぞれ個性的で素敵なブローチが出来上がりました。とても楽しい時間となりました♪



お知らせ

クーリングシェルター(指定暑熱避難施設)を活用しましょう！

10月22日(水)まで、冷房設備のある市内の公共施設をクーリングシェルターとして開放しています。熱中症に注意して、外出時など暑いときはクーリングシェルターで涼みましょう！！

中川地区公民館でも、開館時間に開設しておりますので、お気軽にお立ち寄りください！

(※事業により公民館が閉館している場合もあります)

施設の詳細は、市報6月号でご確認ください。



おらほの中川〈地域の話題シリーズ 第二百一弾〉

「昭和考、問わず語り（その53）」

昭和十二年七月七日深夜、北京郊外盧溝橋付近で日本軍と中国軍の衝突が起こった。この衝突に端を発し、支那事変（日中戦争）へと発展する。

この事変は、満州事変とは比較にならない本格的な戦争となり、国内では本格的な戦時体制を構築することとなる。

本稿では、この支那事変の発端とその後の拡大の経過について記述する。

〈盧溝橋事件の発生〉

昭和十二年（一九三七年）七月七日午後十一時、北京（当時は北平）郊外を流れる永定河にかかる盧溝橋（写真）付近で十数発の銃声が聞こえました。これをきっかけにその後八年にわたって戦われる日中間の戦争が始まることとなります。

当時、橋のたもとには中国駐屯地があり、一方そのすぐそばの河原では、日本の支那駐屯軍が夜間演習をしていました。十数発をどちらが発砲したのかは、諸説があります。

日本軍は、銃声後兵の一人が行方不明になった（その後、何事もなく帰隊）ため、戦闘態勢を整えたところ、さらに発砲があったので中国軍を攻撃したと主張。中国軍は、日本軍が一方的に攻撃をしかけてきたと主張します。



〈調停への働きかけが実現せず〉

この報告を受けた近衛内閣は、不拡大・早期解決の方針をとり、現地での協定でおさめるつもりだった。また陸軍も参謀本部第一部長（作戰担当）の石原莞爾が、満州国建設優先・対ソ戦略重視の立場から、日中の大規模な軍事衝突は避けるべきである、と不拡大論を唱えていた。

ところがその後、陸軍省内の拡大派の突き上げや中国中央軍が北上したとの情報から、七月十一日午後、政府は派兵を閣議決定し、夕刻には「北支派兵に関する政府声明」を発表してしまします。

この声明の直後、現地では停戦協定が締結されますが、停戦したにもかかわらず、支那駐屯軍は、七月末まで、北京の中国の守備軍を駆逐して占領し、次いで天津も占領してしまします。

〈戦線の拡大、支那事変の呼称を決定〉

戦争の機運が高まるなかで、火種が華中に飛び火します。「上海事変」（第二次）の勃発です。

八月九日、上海で情報収集中の海軍特別陸戦隊員二名が中国の保安隊に射殺される事件が起こると、日本はただちに陸戦隊五千、艦艇三十隻を集結させ、これに対し中国も南京方面に駐屯している軍隊を上海に急行させます。そして対峙する間もなく、十三日、中国空軍が爆撃を始めます。

八月十四日、南京の中国国民政府主席・蒋介石は、「中国はいかなる領土も放棄しない。侵略に対しては天賦の自衛権を行使するのみ」との「自衛抗議声明」を発表。これに対し、近衛内閣は翌八月十五日、「支那軍の暴戻を懲らし、以て南京政府の反省を促すため今や断固たる措置をとる」との政府声明を発表。十七日には、「不拡大方針の抛棄」を決定、九月二日には、北支事変の名称を「支那事変」へ改称することを決めます。中国との全面対決、日中戦争が開始されます。

（加藤陽子著「とめられなかった戦争」文春文庫刊。写真は、「昭和二万日の全記録」講談社刊より）

甲石地区 高橋 正之

〈海軍が大苦戦、国民総動員運動開始〉

蒋介石は、上海で再び日本と戦う可能性を考え、ドイツの支援により、上海周辺に強固な陣地を築き、最新兵器を備えた新鋭部隊を配置していたことから、日本海軍の陸戦隊が大苦戦に陥ります。

このため日本側は急きょ陸軍部隊を派遣するとともに、九月に入ると国民精神総動員運動を開始します。

この運動は、政府や民間団体が協力して国民に戦争協力を呼びかける運動で、具体的には、消費の節約、増税や労働強化、戦費捻出のために国債の購入や郵便局に貯金をする（郵便貯金は政府が運用する）などと呼ばれるのである。（古川隆久著「昭和史」ちくま新書）

〈日中戦争の戦死者、戦費〉

日本がこの戦争に動員した兵士は、昭和十二年の開始時で九十七万人、昭和十五年には百五十万人に達したとされています。（加藤陽子著「とめられなかった戦争」文春文庫刊）

また日本は、昭和十二年十二月南京占領までの第一段作戦において、陸軍は戦時編成の十六師団を中国戦線に送り、海軍は第二、第三艦隊と航空隊の主力を使用し、一万八千の戦死者と五万二千の負傷者を出した。昭和十六年（一九四一年）末までの日中戦争による軍人軍属の死者は、十八万五千余名にのぼる。（昭和史）岩波新書）

〈支那事変における中川地区の戦死者〉

この支那事変では、中川地区でも以下の方々が戦死されています。心よりご冥福をお祈り申し上げます。（中川郷土史より）

- | | |
|-----|------------------|
| 糸目 | ・ 稲毛 勇 |
| 甲石 | ・ 石井 薫 |
| 永野 | ・ 加藤 栄右衛門、 齋藤 又治 |
| 仙石 | ・ 稲毛 善右衛門 |
| 権現堂 | ・ 齋藤 吉平、 齋藤 與四郎 |
| 小倉 | ・ 長沢 傳 |

（次回は、日中戦争の展開と南京事件について記述する予定です。）